

令和元年度の学校評価

1 重点目標等

令和元年度の重点目標		<p>1 基礎的・基本的な知識及び技能、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力、そして主体的に学習に取り組む態度をバランス良く育成する効果的な学習指導を実施すること及びキャリア教育を一層推進することにより、生徒の学力向上及び進路実現を目指す。</p> <p>2 生徒一人ひとりに丁寧に関わりながら、生徒の特性を的確に把握し、個に応じた指導を実現する。</p> <p>3 より積極的かつ組織的に情報を発信することにより、中学校やその保護者、地域の人々をはじめとする本校への県民ニーズに応える。</p> <p>4 各教員が健康的に教育活動に従事できる環境を整えていく。</p>	
項目	重点目標	具体的方策	留意事項
授業改善、キャリア教育等の推進	授業改善、キャリア教育等とおして生徒の学力向上及び進路実現	<p>ア 授業を中心とした丁寧な学習指導により、基礎的・基本的な知識の習得を促す。</p> <p>イ 生徒自らの学習計画に従い、主体的な学習に取り組む態度を育成する。</p>	<p>ア 定期考査や、小テストの結果が、満足できるものとなるような指導を行う。</p> <p>イ 手帳型教材を活用し、学習計画を立てさせる取組を行う。</p>
		<p>ウ 主体的・対話的で深い学びの視点を取り入れた研究授業を充実する。</p> <p>エ 「総合的な探求の時間」が有効的なキャリア教育と結びつくよう、内容の改善・研究に取り組む。</p> <p>オ オープンキャンパスやインターシップへの積極的参加を促す。</p> <p>カ 各種進路ガイダンスや大学模擬授業等の年間指導計画に沿ったキャリア教育を実践する。</p> <p>キ 個人面談を通して進路意識を向上させる。</p> <p>ク 高大接続改革への対応を行う。</p>	<p>ウ 各教科で新学習指導要領を踏まえた研究授業を実施し、授業改善を行う。</p> <p>エ 学年、教務部、進路指導部、生徒指導部を中心に内容の改善に取り組む。</p> <p>オ 事前及び事後指導を工夫する。インターシップ新規実習先を開拓し、就職希望者全員を参加させる。</p> <p>カ 手帳型教材を使用し事前準備と振り返りを充実させる。</p> <p>キ 進路指導やポートフォリオの蓄積を確認する。</p> <p>ク 大学入試共通テストの情報を教育間で共有し、必要な対策を実施する。</p>
学校行事、部活動、清掃活動等の充実	学校行事、部活動、清掃活動等とおして生徒の心（思いやり、規範意識、人権感覚等）の育成	<p>ア 生徒主体の学校行事運営を行う。</p> <p>イ 部活動状況を積極的に広報する。</p> <p>ウ 中学校や地域と部活動での連携を行う。</p> <p>エ 部活動運営方針に基づき、適切に部活動運営を行う。</p> <p>オ 生徒に挨拶を励行させる。（正門・昇降口指導、授業等）</p> <p>カ 人権講話等の機会を利用して思いやりの心を育む。</p> <p>キ いじめの未然防止に係る取組を充実させる。また、いじめの早期発見及び適切な対応を行う。</p> <p>ク 清掃活動を充実する。</p>	<p>ア 生徒が自ら考え、行動し、やりがいや満足感を実感できるようにする。</p> <p>イ 学期に1度は、部活動の対外成績をHP・碧高ニュースに掲載する。</p> <p>ウ 合同練習会等の場を設ける。</p> <p>エ 部活動ごとに運営方針を生徒・保護者に周知し、理解・協力を求める。</p> <p>オ 全校指導体制を充実させ、年度末まで継続して取り組む。</p> <p>カ 人権週間をまたぎ、多面的、実践的な内容を計画する。</p> <p>キ 学校いじめ防止対策組織の役割を生徒や保護者に周知する。学校生活アンケートや個人面談を活用する。生徒指導と教育相談とが効果的に機能するようにする。</p> <p>ク 通常清掃や学年による清掃活動を通じて、協調性や方針の精神を身につける。</p>

開かれた学校づくり	開かれた学校づくりをとおして本校への県民ニーズの対応	ア 広報活動を充実する。(HP、リーフレット、碧高ニュース) イ 学校と連携したPTA活動を実施する。 ウ 総合ビジネス科のHPを更新する。 エ 碧南市の中学校への出前授業を実施する。	ア 学校行事や部活動の活動記録については個人情報の保護に留意しつつスピード感をもって更新する。 イ 行事の時期や内容に改善を加えていく。 ウ 進路実績を速やかに公表する。 エ 中学生にわかりやすい内容に努める。
笑顔溢れる学校づくり	笑顔溢れる学校づくりをとおして教員の多忙化解消及び不祥事防止	ア 教職員の多忙化解消のための取組を実施する。 イ 不祥事のない教育活動を行う。	ア 年に5回、多忙化解消ワークショップを実施する。 イ 朝の連絡シートを活用して事例を数多く提供し、学校全体で注意する。
学校関係者評価を実施する主な評価項目		1 授業改善、キャリア教育等の推進 2 学校行事、部活動、清掃活動等の充実 3 開かれた学校づくり 4 笑顔溢れる学校づくり	

## 2 評価結果

### ア 自己評価結果等

平成30年度の重点目標		1 生徒のキャリア形成の方向性と関連づけながら、基礎的・基本的な知識及び技能、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力、そして主体的に学習に取り組む態度をバランス良く育成する指導方法の改善に取り組む。 2 生徒一人ひとりに丁寧に関わりながら、生徒の特性を的確に把握し、個に応じた指導を実現する。 3 各教員が健康的に教育活動に従事できる環境を整えていく。	
項目	重点目標	具体的方策	評価結果と課題
規範意識、人権感覚の向上	碧南高校生としての誇りを喚起し、規範意識・人権感覚を高める教育を行う。	ア 広報活動の充実（HP、リーフレット、碧高ニュース） イ 挨拶を励行（正門指導、授業等） ウ 人権講話等の実施  エ いじめの未然防止に係る取組の充実・いじめの早期発見及び適切な対応	ア 計画どおり実施でき、本校生徒の誇りを喚起することに寄与した。 イ 一部の生徒が挨拶できない。 ウ 日常場面での取組を実施できるように準備したい。 エ 今年度は早期発見に対応できた。生徒指導と教育相談の融合体制を構築する。
授業改善の推進	全ての教科・科目において新たな授業改善を図り、生徒の一層の学力向上に努める。	ア 身に付けさせたい力と評価方法の明確化 イ 月間目標等、短期・長期の到達目標の作成  ウ 全ての教科・科目で、生徒が「どのように学ぶか」を意識した授業を計画 エ 研究授業の充実 オ 学習時間調査の実施  カ 現職研修において、授業改善に関する講話の実施	ア 年間計画を作成することで各教員が意識できている。 イ 短期到達目標は手帳の活用で実施できた。長期達成目標は十分ではない。 ウ 授業改善に向けた努力はできている。実施状況を把握する必要がある。 エ 指定校事業、年次研修での実施などで回数は増えた。 オ 年2回の調査に加え、1、2年生は手帳活用での把握を行うことができた。 カ 実施できなかった。
キャリア教育の推進	生徒一人ひとりの進路実現を図るために、三年間を見通した学習指導並びにキャリア教育を確立する。	ア キャリア教育の年間指導計画の実践（普通科：総合的学習の時間） イ オープンキャンパスやインターンシップへの積極的な参加	ア 計画的に実施することができた。  イ 早い時期からのオープンキャンパスへの参加が望まれる。インターンシップ参加者は増えており、職業観、就業観の醸成につながっている。

		ウ 各種進路ガイダンス実施による エ 個人面談を通じた、全校的な進路意識の向上	ウ 進路を考えさせるうえで、充実した取組が実施できた。 エ 各学年も充実した個人面談を実施でき、生徒の進路意識が高まった。
学校行事、部活動等の充実	豊かな人格形成を目指し、学校行事、部活動等の一層の充実を図る。	ア 生徒主体の学校行事運営の実施 イ 清掃活動の充実 ウ 受納式、部長会の積極的な活用 エ 中学校と連携した部活動 オ 部活動状況の積極的な広報 カ 個人面談を通じた部活動相談	ア 生徒主体が実施できた。 イ 不十分な箇所がある。 ウ 部活動の充実に資するものになっている。 エ 一部の部で実施できている。 オ HPでの広報を拡大したい。 カ 実施できなかった。
開かれた学校づくり	地域とのかかわりを積極的に進め、地域に信頼される学校づくりを図る。	ア 広報活動の充実（HP、リーフレット、碧高ニュース） イ PTA活動の活発化（交通安全指導、巡回、ハンギングバスケットづくりなど） ウ 交通安全指導によるマナー向上 エ ボランティア活動への積極的参加 オ 商工会議所、ハローワーク、各業種組合との密な連携 カ Kプロジェクトの継続及び拡大、出前授業の実施による総合ビジネス科の周知	ア 計画どおりに広報することができた。 イ 予定どおりに実施できた。 ウ 指導中は概ね良好である。 エ ボランティア部をはじめ積極的に参加できた。 オ 連携で得られた就職関係情報を適切に活用できている。 カ 現状維持でも充実している。出前授業は効果がある。
笑顔溢れる学校づくり	生徒・教員が笑顔で活動できるように業務改善を図る。	ア 長時間勤務の是正 イ 不祥事防止	ア 運営委員によるワークショップを月1回開催し、実施できるものから実施している。 イ 注意喚起と情報提供を行い、未然防止に努めている。

## イ 学校関係者評価結果等

学校関係者評価を実施した主な評価項目	自己評価結果及び今後の改善方策について
1 規範意識、人権感覚の向上	大人が起こす酷い事件が頻発している。是非思いやりのある生徒を育てる教育を今後も実践してほしい。
2 授業改善の推進	出前授業では、生徒が参加する楽しい授業を見せてもらった。今後は学力の伸長にも力を置いて地域の拠点の学校になってほしい。
3 キャリア教育の推進	2020年からの新大学入試共通テストについては保護者が不安を感じていると思う。今後、共通テストについての情報を提供して欲しい。また、インターンシップは効果を発揮していると思う。今後、受け入れ先の確保に協力したいと思っている。さらに、手帳型教材の活用というのは新しい試みであると感じた。
4 学校行事、部活動等の充実	部活動の指導は大変であると思うが、碧南高校は成果を出している。中学校との部活動交流はこれからも是非続けて欲しい。
5 開かれた学校づくり	ボランティア活動はよくやっている印象がある。新聞で学校の取組が多く取り上げられていることは良いことである。
6 笑顔溢れる学校づくり	ペーパーレス会議がだんだん増えてきている。働き方改革につながるとよいと思う。また、生徒が楽しく高校に通えるようにしてほしいと思うが、働き方改革との両立は難しいかもしれない。
その他、学校関係者から出された意見、要望	進学して他の地域に行ったとしても、いつか地域に成果を還元できる生徒を育ててほしい。また、将来町づくりを構想できるような大人になってほしい。
学校関係者評価委員会の構成及び評価時期	1 構成…学校評議員5人 2 評価時期…平成31年2月